News Letter
うるるほC★
2023.06
193

認定 NPO 法人
コミュニティリーダーひゅーるぽん
こども発達支援センター・就労継続支援B型事業所ぽんぽん
まちづくりボランティアセンター・アートサポートセンターひゅるる
〒731-0102 広島市安佐南区川内 6-28-15
Phone.082-831-6888/Mail.info@hullpong.jp

今月のとぴっくす

子ども、大人も、ボランティアも、
みんなが「わくわく」
育ち合う場を目指して

地域と〝つながろう〟
わくわくきっず

「今日はなにする～？」「おにご！」「えー、ドッヂがいい～」

とある木曜日の園庭に、子どもたちの声がひびきます。スタッフが、どうしたらええかね～？と子どもたちに問いかけると、「多数決すればいいじゃん！」と提案してくれる男の子。この日はドッヂボールをすることに決まり、園庭いっぱいにコートを書いて思いっきりドッヂボールを楽しみました。

ひゅーるぽんでは昨年の12月から、きっずぐみの子どもたちと、ご近所の子どもたちがひゅーるぽんの園庭で一緒に遊ぶ、地域交流の時間を設けています。冒頭はその一場面です。子どもたちがお互いを知り、成長し合う場となれるように、また地域とのつながりを様々に作りながら、ひゅーるぽんがいろいろな人が集う地域の拠点になれるようにという思いで始めた活動です。今のところ毎週木曜日の放課後、16時～17時の1時間で行っており、小学生を中心に、毎回10人くらいのご近所の子どもたちが遊びにきてくれています。

これまでコロナの感染流行があった時期には中止にせざるを得ない週もあったのですが、「今度はいつ遊べるん？」と再開を心待ちにしてくれる子もいました。回を重ねるごとに、きっずぐみのスタッフや子どもたちとも顔見知りの子が増え、たまにご近所で出くわすと「また木曜日にね～！」と声をかけ、手を振り合う関係ができ始めています。

遊びはというと、子どもたちの年齢は幅ひろく、活発な子が意欲満々の運動遊びには苦手意識のある子もいて、うまくかみ合わないこともあります。小さい子でもできるような易しいルールにしたり、たまには体を動かす遊び以外のことも取り入れたりしつつ活動をしています。バーベキューコンロを囲んでの焼きマシュマロは大好評でした。お互いの理解と、子どもたちの楽しい関わりを促していく工夫も必要だと感じています。

いつも遊びにきてくれる、Nくんのお母さんは、これまで「ひゅーるぽん」のことを、近所にあるけれどあまり詳しく知らなかったと言います。毎週Nくんやごきょうだいが楽しみに来れる遊び場、交流の場ができたことを喜んでくださるとともに、子育てサロン（概ね0～3歳の親子の遊び場）など、ひゅーるぽんで実施しているその他の活動も知り「もっと早く知っていたら連れてきたかったな」と残念がっておられました。また、「ママ友に教えてあげよ～」と、子育てサロンのチラシを持って帰ってくださるなど、この活動をきっかけに新たなつながりが広がっていく予感もしています。

さて、新年度を迎え、子どもたちで案を出し合い、この活動に「わくわくきっず」という名前をつけました。まだ始まったばかりの活動ですが、この名前の通り、子どもたちがつながり合いながら、わくわくが膨らむ時間を一緒に作っていければいいなと思います。「木曜は来れんから土曜にして欲しい！」という要望が飛び出すなど、今後活動がどのように展開していくかは、スタッフにもわかりませんが、子どもたちの思いを大切に、一緒に考え創っていける活動にしていきたいと思います。

また、ひゅーるぽんには1年を通して、ボランティアや実習などで活動に参加する高校生、大学生もいます。様々な人がつながり、関わる中で、学びや成長を感じられるひゅーるぽんの活動。わくわくきっずもそのひとつになるといいなと思います。

www.hullpong.jp

お知らせ

●地域食堂「みんなおいでや～」

5月20日(土)、おいでや、復活しました。今後も毎月第3土曜日に開催します。ぜひたくさんのご参加をお持ちしております！メニューはカレーライス♪食材のご寄付なども大歓迎です。

●夏のボランティア体験大募集！

学生さんの参加をお待ちしています！初めての方もガイダンスがあるから安心です。夏ボラの期間中は、水遊びや地域食堂などちょっとしたイベントも行われる予定です。ひゅーるぽんのみんなと素敵な夏を過ごしてみませんか？その他の時期もボランティアは随時募集しています。詳細や申し込みは QR コードからどうぞ。

●障がいのある方がデザインの新フォント、名刺制作承ります

この度、ぽんぽんの通所者の文字や表現がフォントやパターンになりました。それらを使った名刺の制作を 100 枚千円で承ります。詳しくは、QR コードからどうぞ。

●ぽんぽんアート T シャツ販売中！

通所者のアートを使ったグラフィックTシャツができました。
日常使いしやすいデザインに仕上がっています。
ご注文はカタログの注文用紙から受付ております！

● HPAR2023 開催します

広島市ピースアートプログラム「アート・ルネッサンス」もうすぐです。
会 期：9月23日(土)～10月1日(日)
10:30～18:30(初日は 11:00～)
会場：合人社ウェンディひと・まちプラザ
北棟ギャラリー(広島市中区袋町 6-36)
およそ 200 点の入選作品などを展示。どんな作品に出会えるか… ♪ おたのしみに。

あなたにありがとう

22.12 月～ 23.5 月

■正会員・賛助会員
稲見悦正、長野芳子、渡部早栄香、柴田奈苗、胡子秀美、森山孝代、鬼頭恵美子、城達明、迫谷克利、清水拓郎、三登陽子、松島夏子、上田直人、職員 5 名、匿名 12 名

■ご寄付
鎌田春生、長野芳子、新三千代、阿曽沼武、公益財団法人社会貢献支援財団、沼田組仏教婦人会連盟、江浜遊亀子、小林啓志、佐藤裕子、北川芳昭、渡部朋子、山口紀子、山口紀昭、福山博史、加藤直規、坂本美恵、秋田訓宏、三登陽子、匿名 10 名

■物品のご寄付
阿曽沼武（果物）、ヤクルト（飲料）、秋田訓宏（日用品）、門田修（絵本）、井上大輔（絵本）、瀬尾圭史（地域食堂食材）、森山学（地域食堂食材）、稲見悦正（地域食堂食材）、星野翼（地域食堂食材）、猪飼亮（地域食堂食材）
匿名 5 名（果物、地域食堂食材、お花）

（敬称略・順不同）

賛助会員

Hull Fan 年間 4,000 円
お申し込みは www.hullpong.jp から
クレジットカード等もご利用いただけます

私たちの活動は
あなたのおこころざしで
もっとあったかく
やさしくふくらみます
ぜひ私たちを支えてください

このご寄付は税制上の優遇を受けることができます

コロナ3年間の子育て相談をふりかえる
ー現場に寄せられた声から感じ考えたことー

相談担当保育士　川口明美
うるとらのほし編集部

5月、WHOは2020年1月に発出し3年3ヶ月も続いた「コロナ緊急事態宣言」の終結を発表しました。日本でもこの期間、さまざまな社会的な制約を余儀なくされた生活が続いてきました。今回はこの3年間を、ひゅーるぽんの「初期支援」の現場から振り返ります。

相談現場でみたお母さんの涙

ひゅーるぽんでは子育ての不安やこどものちょっとした気になることを気軽に相談できる「初期支援」として、電話やメール相談、家庭訪問や来所の個別相談、子育てサロンなどさまざまな方法で年間約100組の親子とかかわっています。また他のNPO法人との協働で毎月「出張発達相談」に出向き、安佐南区の親子が笑顔で子育てできるお手伝いをしています。

しかし、新たな未知のウイルスとその致死率の高さなど、社会全体が不安に駆られていた時期、「人に会う」こともままならなくなり私たちも直接お会いしての活動の休止を余儀なくされていきました。

「名前を呼んでも振りむかないし、ようやく歩き始めたと思ったらあちこち動き回って目が離せないんです。」と電話をくれたあるお母さん。「今、コロナでなかなか外に出れんしね。お母さんも色々大変よね」と何気なく電話口でかけた言葉にそのお母さんは突然堰を切ったように泣き始められました。「公園に遊びに行ったら少しはこの子も疲れて昼寝してくれるかなと思うんだけど・・・。誰も遊んでない公園で遊ぶなんて人の目が気になるし。家だとテーブルに上がったり悪いことばかりして怒ってもやめないし。思わずこどもを叩いてしまいました。びっくりして泣いているこの子と一緒に泣いて、気づいたら二人で夕方まで寝てました。またいつかこの子に手をあげそうで怖いんです…。1歳半健診で相談しようと思っていたら休止になってしまって、もうどうしたらいいのかわからないときにたまたまひゅーるぽんのポスターをみて電話したんです。」

緊急ケースと判断し、「今からでもいいからひゅーるぽんに遊びにこられますか？」と言うと「えっ？いいんですか？はい。今から行きます！！」なんと1時間後には親子で来られました。その後1時間半、元気に遊び回る子どもさんをみながら、お母さんと雑談し、その後何回か個別で遊ぶ時間を提案すると、穏やかな顔で帰っていかれました。

このケースを通して、もしも公園で遊べる日常があれば、お母さんがお話しできる日常があれば、ここまでお母さんを追い詰めることはなかったかもしれないと、強く感じました。

コロナ禍によってママ友との交流や、公園でのちょっとしたかかわりなど、ほとんどのつながりや交流が閉ざされた中での子育ての孤独感は半端ではなかったはずです。そこに発達に気がかりなことのある不安な気持ちを持ち続けながら、それをだれにも相談できず我が子と室内で向き合うことはどれほどしんどかったことでしょう。

子育てへの不安

このような親子にコロナ禍の時期、非常に多く出会いました。出張発達相談でも、これまでは子どもの発達にフォーカスすることが多かったのですが、それよりもお母さんの孤独感やしんどさを涙ながらにお話しされるケースがほとんどでした。

文末に示す「全国認定こども園協会」の調査（グラフを参照ください）でも保護者の半数以上が緊急事態宣言下で普段とは違う感情や行動を経験していると答えていました。イライラや孤立感や閉塞感、外出への恐怖、感情を抑えられない、怒りっぽくなった、子育てが辛い、子どもを叩いてしまいそうになるなど、さまざまな感情を持ちながらそれでも子育てを頑張られていたのがこの時期のお母さんやご家族の姿です。

また、その頃の相談でよく耳にしたのは1歳半健診の休止による不安でした。

昭和52年から始まった1歳6ヶ月健康診査（通称：1歳半健診）は令和2年度には95・2％と高い受診率で、赤ちゃんを育てる親にとっては大切な節目の健診でもあります。全国的にもそうですが、広島市でも集団健診が一時的に休止となり、その後小児科での個別健診を中心に再開されました。ようやく健診が受けられる安堵感とは裏腹に、病院へ行くことに対してコロナ感染の不安もあり、お父さんから行くのを止められたと話すお母さんもいました。

この頃は2歳すぎてようやく健診を受けることができたという親子をたくさん目にしました。その間ずっと家で「歩くのが遅いのかな？」「在宅ばかりで外で遊んでいないから言葉が遅いのかな？」と悶々とされていたり、「自閉症」「発達障害」…と検索して一喜一憂。子どもが寝ている時間はいつも検索していると言われたお母さんがたくさんおられました。

ひゅーるぽんの相談件数をみると集団での1歳半健診が再開された頃から1歳前後の親子の相談件数が3分の1に落ち着いてきました。その様子から健診が休止の間、相談できる場を一生懸命さがされていたお母さんたちの姿が浮かびます。ひゅーるぽんのポスターを見て電話をくださったお母さんのように、常日頃から「地域で気軽に相談できる場がある」ことを情報として広く発信していく必要性をあらためて感じています。

このニュースレターを音声で聴いていただけるようになりました！しかも、音声ならではの仕掛けつきです。ぜひ、こちらからどうぞ

NL-193

「とめない・寄り添い続ける」

電話で相談をうけても、遊ぶ姿や親子が一緒にいる時の空気感など、ベースになるアセスメントができにくいため一般論しかお話ができないもどかしさもありました。また、頻繁に電話をいただくものの、コロナ禍で直接お会いすることが難しく育ちの不安になかなか寄り添えきれないもどかしさもありました。こんなに不安を感じておられるお母さんの子育てが子どもにとっていい影響を与えるとはとうてい思えませんでした。

「相談・子育てサロンはとめない。安全に出来る方法を考えて実施しよう」それが私たちが出した結論でした。

来所の個別相談は、健康チェックと限定した部屋を使うことで再開。子育てサロンもオンラインを使い、絵本やおうちで楽しめる親子遊びを画面越しに楽しんだり、後半期は「密を避ける」ために部屋は使わず園庭で遊ぶ形で再開しました。

あえてサロンの回数を月2回から毎週開催にすることで、親子が週1回は気兼ねなく外出でき、思いきり走りまわって遊べる場を作ることができました。私たちにとっては親子の状況が毎週確認できることで、最初に記述したケースの「おうちで我が子を叩いてしまう」といった気持ちに少しでも歯止めをかけたい思いもありました。

すると、オンラインのサロンは4～5組の参加だったのに対し、園庭で遊ぶサロンになると毎回10組近くの参加がありました。オンラインよりも「我が子と外に出たい」「直接スタッフと話がしたい」という思いがあったのだろうと推測します。雪のちらつくなかでのシャボン玉遊びもいい思い出です。

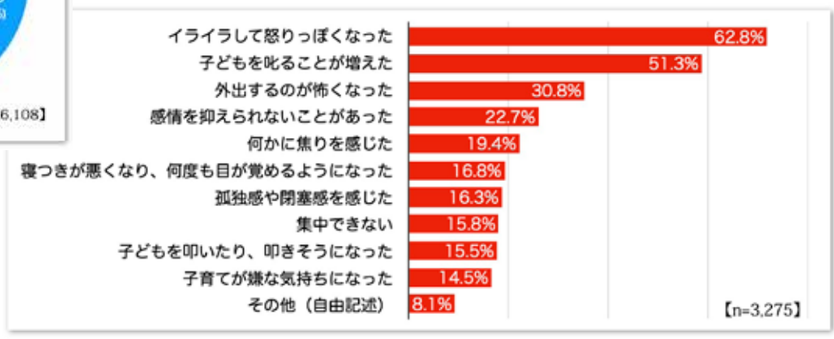
コロナ禍を通してオンラインなど便利なツールを活用しやすい社会になりました。子育てサロンでも初めてオンラインを取り入れたことで、今後在宅の親子とつながることのできる一つの方法として活用できそうです。

しかし、子育ては親と子どもが直接かかわりふれあうアナログそのものです。その子育てに寄り添う私たちにもやはりアナログ的なつながりやかかわりが必要で、オンラインなどはあくまでそれを補完するものであることも身をもって経験しました。子どもとはもちろんご家族の方とも顔を合わせながら、心をこめてかかわっていく、そんなあたりまえのつながりの大切さもコロナ禍を通してあらためて強く感じました。

今回のような未曾有な事象は自然災害も含めいつおこるかわかりません。その時私たちは、今回の経験から、なんでも休止ありきではなく「とめない・寄り添い続ける」方法を可能な限り模索していきたいと思います。子育ての不安や、発達が気になっている親子に寄り添い、非常時であっても少しでも「笑顔で子育てできる」日常を守りたいと思います。

そして、ご家族がどんなときでもどんなことでも気軽に相談できる場として、これからもNPOらしくフットワーク軽くすすんでいきたいと思います。

参考
※1特定非営利活動法人全国認定こども園協会
新型コロナウイルス感染症対策プロジェクトチーム
「新型コロナウイルスに係る就学前の子育て家庭への緊急アンケート」より抜粋



www.hullpong.jp

サミットが終わりました。どこを見ても全国からの警察官とパトカーであふれる市内の景色は緊張に包まれていました。市内のほとんどの学校は休校となり、ベッドタウンに位置するひゅーるの近隣の学校でさえ、給食提供中止の時短カリキュラムでした。▼そんな非日常の中、もうひとつ、熱い思いがあふれる景色がありました。各国首脳に広島の思いを伝えようと街のあちこちで行動をされた被爆者、市民団体、平和活動に携わる多くの方々の姿です。平和の地広島で行われるサミット。広島出身の総理大臣が議長を務めるサミット。歴史を変え、希望を生むサミットであって欲しい。広島市民の多くはそう願い、サミットの行方を凝視しました。しかし、結果は…。みなさんはどのように評価されたでしょうか。▼被爆者の方々をはじめ私たち広島市民は挫けることなく、弛むことなく声を上げ続けます。平和な社会、多様性のなかで支え合って生きる社会は、指導者の一言ではなく、思い合い、認め合い平和を希求する市民の声が連帯し響きあうことできっと成し遂げられると信じているからです。広島市民が受け継いだ DNA は決してヤワではありません。▼私たちも、このサミットに合わせて、おきらく劇場ピロシマの「ウタとナンタのさかのぼり」を YouTube で無料公開しました。ぜひ、右の QR からご覧ください。笑いながら、平和や幸せについて思いを馳せる素敵な時間をどうぞ。（T）

この子らと世に光を
発行者：認定 NPO 法人ひゅーるぽん
発行日：2023/06/20（年２回発行）
ひゅーるぽん会報”うるとらのほし”